

## 医学系研究科

I	教育の水準	.....	教育 5-2
II	質の向上度	.....	教育 5-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 「生命シグナルを基盤とする統合生命学」等の文部科学省事業グローバルCOEプログラムによる4拠点の運営や、博士課程教育リーディングプログラム「ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム」、「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム」により、国際性に富んだ分野横断型の教育に取り組んでいる。
- 海外の学術機関との学術交流協定数は、平成21年度の15件から平成27年度の29件となっており、教員等の交流により、大学院教育の国際化や教育水準の向上に取り組んでいる。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 20コース以上の医学共通科目（医学共通講義、医学集中実習、医学特論）と専攻ごとの科目に加え、文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成」等を利用した、医学領域の多様性と変化に対応した教育を実施している。
- グローバルCOEプログラム、博士課程教育リーディングプログラムによる短期海外留学制度や外国人講師によるセミナー等、国際化に対応した取組を実施している。

以上の状況等及び医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目 II 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術論文数は、平成22年度の234件から平成27年度の453件へ増加しており、多くは査読付き欧文学術雑誌への発表となっている。
- 国際学会発表数は、平成22年度の197件から平成27年度の271件へ増加して

いる。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成22年度以降に入学し、平成27年度までに医学博士課程を修了又は満期退学した者のうち7割以上は、大学教員や日本学術振興会特別研究員、国立研究所の研究員、欧米の大学・研究機関の研究員等の研究職（臨床研究医を含む）に就いている。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における修士課程修了生のうち、博士課程へ進学する者の割合は5割程度となっている。

以上の状況等及び医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度に研究ガイドラインを策定し、入学時ガイダンスで活用している。また、学生や指導教員を対象とした研究倫理セミナーの実施等、研究者に求められる倫理観、公正性、生命倫理等に関する教育に取り組んでいる。
- 海外の学術機関との学術交流協定数は、平成 21 年度の 15 件から平成 27 年度の 29 件へ増加しており、国際的な教育機会の提供や大学院教育の国際化に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 海外の研究機関等で研究発表や討論を行う議論力強化ワークショップ等、主体的な研究を促す取組を実施しており、平成 22 年度と平成 27 年度を比較すると、査読付き欧文学術雑誌への発表数は 205 件から 399 件へ、国際学会発表数は 197 件から 271 件へ増加している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

### 2. 注目すべき質の向上

- 海外の研究機関等で研究発表や討論を行う議論力強化ワークショップ等、主体的な研究を促す取組を実施しており、平成 22 年度と平成 27 年度を比較すると、査読付き欧文学術雑誌への発表数は 205 件から 399 件へ、国際学会発表数は 197 件から 271 件へ増加している。